

【現状チェック】「型」は合っているのに、心が動かない理由を探る

## 「借り物」の言葉、無風の投稿

正しいのに、触れられない。手応えが残らない。

### 現在の違和感

- テンプレ通りに書いているし、構成も読みやすさも問題ない
- 読まれてはいるが、反応（いいね・コメント）が止まっている
- 正論を言っているはずなのに、誰の記憶にも残らない
- 書いた本人も、自分の言葉に手応えが感じられない

— 診断：言葉の「出どころ」が、今の自分から離れています —

## 「説明」に寄せて、 「実感」を置去りにしている。

- 安全な「型」をなぞるあまり、自分の現在地が不明になっている
- 過去のテンプレに言葉を合わせ、言葉が「借り物」になっている
- 読み手があなたと接続するための「感情のフック」が不在

### 原因の核心

#### 言葉の出どころが見えない / 接続の不備

「何を言うか」に集中し、「なぜ今言うか」が抜け落ちています。

テンプレが悪いのではありません

## 「正しさ」だけでは 心は動かない。

### × 捨てていい誤解

テンプレを使うのが原因だ  
文章力が足りないからだ  
内容をもっと凄くすべきだ

### ○ 直視すべき事実

構造はすでに足りている  
整えた文章は「毒」にもならない  
型に「命（実感）」を戻す

**「型」は器にすぎません。中身はあなたの「熱」です。**

綺麗なだけの文章は流されますが、一滴の「実感」は記憶に刺さります。

## 自分の「位置情報」を明示する

「なぜ今、これを書くのか？」を置く  
説明ではなく、今の「実感」を置く  
体験の直後から、主語を自分で話す

【感情の発生地点を出す】

言葉の出どころを「今の自分」に固定して発信を開始します。

借り物の言葉を脱ぎ捨て、あなただけの「視点」を構築しましょう

## 文章に「体温」が宿り始める

流される正論 → 「この人の話」として読まれる

一方的な説明 → 読者が引き寄せられる共鳴

無機質な型 → テンプレが本来の機能を果たす

違和感の蓄積 → 書くことへの納得感が生まれる

## 冒頭に「なぜ今？」の一行を置く

1. 投稿前に「なぜ今これを書く？」と自分に問う
2. 出てきた答えを「一行」で書く（綺麗にしないでOK）
3. その一行を、そのまま冒頭に配置する
4. テンプレの本文は、その後に繋げる
5. 説明的な一文をあえて「一つ削る」
6. 自分の実感を込めた一文を「一つ残す」

## 「位置不明」を解消する点検図

### 主な活用シーン

テンプレを使って反応が止まった時  
借り物感のある文章に嫌気がした時  
発信前の最終チェックとして  
自分の「言葉」が見つからない時

### 期待される効果

- ✓ 出どころが特定された強い発信
- ✓ 読者の記憶に残る存在感の確立
- ✓ テンプレ活用時のズレの即時修正
- ✓ 発信の「対話」感覚の回復

立ち止まるたびにここに戻り、借り物の言葉を脱ぎ捨ててください。

自分の「温度」で、誰かと繋がる

**「実感」から、始める。**

直近の投稿を一つ選び、冒頭に一行追加する  
三日間、自分の現在地を明示し続けてみる

止まったら再点検。構造の前に、まず「あなた」を。